

## 応用練習問題 5

### <解答>

月末仕掛品原価 550,450 円  
完成品総合原価 3,210,000 円

### 【解説】

総合原価計算において、材料を始点以外で投入する場合の計算方法と、減損の発生点が不明な場合の処理方法について問われている問題である。それぞれのケースについて処理方法を理解していれば難しい問題ではないが、処理方法を知らないとまったく解くことができないことから、検定試験の受験前に一度は経験しておきたい問題である。

#### ①材料を始点以外で投入する場合の計算方法（材料 B・材料 C・材料 D）

##### ●材料 B（加工進捗度 35%で投入）

- ➡完成品と月末仕掛品（加工進捗度  $5/8=62.5\%$ ）の両者負担となり、数量で按分
- ・完成品負担分： $519,200 \times 1,800 \div 2,200 = 424,800$  円
  - ・月末仕掛品負担分： $519,200 \times 400 \div 2,200 = 94,400$  円

##### ●材料 C（工程を通じて平均的に投入）

- ➡加工進捗度を考慮して加工費と同じように計算

##### ●材料 D（工程の終点投入）

- ➡完成品のみ負担となり、完成品総合原価に材料 D の原価を加算

#### ②減損の発生点が不明な場合の処理（加工費）

総合原価計算において減損の発生点が不明な場合には、減損に伴って発生する原価は完成品と月末仕掛品の両者負担として計算する。（この論点は第 149 回検定で出題されている）

以上より、材料費 A、加工費、材料費 C についてワークシートを作成すると次のようになる。

		材料費 A		加工費		材料費 C			
月初	300	149,700		90	74,200	90	15,730		
当月	1,900	954,700		1,960	1,705,200	1,960	297,920		
合計	2,200	1,104,400	@502	2,050	1,779,400	@868	2,050	313,650	@153
月末	400	200,800		250	217,000	250	38,250		
完成	1,800	903,600		1,800	1,562,400	1,800	275,400		

したがって、月末仕掛品原価と完成品総合原価は次のように計算される。

$$\begin{aligned} \text{月末仕掛品原価} : & 200,800 \text{ (A)} + 217,000 \text{ (加)} + 94,400 \text{ (B)} + 38,250 \text{ (C)} \\ & = 550,450 \text{ 円} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{完成品総合原価} : & 903,600 \text{ (A)} + 1,562,400 \text{ (加)} + 424,800 \text{ (B)} + \\ & 275,400 \text{ (C)} + 43,800 \text{ (D)} = 3,210,000 \text{ 円} \end{aligned}$$